

# まさゆき新聞

M A S A Y U K I

S H I N B U N

編集・発行：サウンド&ミュージック クリエーション

〒 216-0004 川崎市宮前区鷺沼 1-11-14 パレスビル 2F TEL044-855-0111 FAX044-788-1727

まさゆき倶楽部事務局 東興華空間 目黒区柿の木坂 3-3-1 TEL03-3414-7562 FAX03-3410-5130



シベリウスの家アイノラ

## フィンランド オウルンサロ音楽会

最近、行く先々でお天気恵まれ私と常に旅を共にするヴァイオリンは、国や気候が変わるごとにそれぞれの場所ですれず違った響きをしております。  
この数ヶ月の旅は、新しい発見や驚きも多く私に更なる創造力を生み出させてくれています。  
秋からのコンサートでは、そういった音を皆さんにお聞き頂きたいと思っております。特に12月の東京都大阪のリサイタルは、今年の集大成ともいえるべきプログラムで、沢山の方に会場にいらしてもらえらる様、頑張りたいと思います。 木野 雅之

99・7・30 ロンドン→ヘルシンキ

今日は、いよいよ初めて行くスカンジナビア、フィンランドへの旅である。空港には、いささか早く着きすぎてしまい、あまり勉強していなかったフィンランドの事をガイドブックを見て少し覚えてみる。ヘルシンキまでは、2時間半の旅。あつとゆうまに大地の広がりそして沢山の湖が見え、フィンランドへ着く。想像していたよりかなり良いお天気。聞くところによると、100年に一度の事だとか……。

さて、午前中着いてから、さっそく観光をしようと思っていた私は、まず、驚いてしまった。何と、もう12時半である！

そう、フィンランドとイギリスは、2時間の時差があるわけで、ものすごく損をした気分になってしまった。でも帰りにもとはとる事になる！

2時に、シーサイドホテルに館野さんが、迎えに来て下さり、一緒にシベリウスの家、アイノラへでかける。ヘルシンキから電車で約30分、そこからタクシーですぐ、静かな森の中にたまたまいいあった。"何と美しい所なのである。" 回りは緑に囲まれ、そして、家の中には多くの絵と、曲にまつわるいろいろな色の壁。館野さんのシベリウスのピアノでの演奏はとても素敵であり、又、私が初めてシベリウスの協奏曲を録音した時の事等、多くの事が、思い出され、胸がいっぱいになる。

夜、ヘルシンキにもどり、館野邸でのパーティー。日本からの沢山のファンの方々と楽しい一時、気が着いたらとても

遅くなっていた。

これから、いよいよ始まる音楽祭の前夜祭だというのに、抑えられぬ興奮が高まる。

99・7・31 ヘルシンキ→オウルンサロ

快適な夜を過ごし、疲れもすっかり取れて、いよいよオウルンサロへ。ヘルシンキ空港から50分の旅。オウルは、この国で2番目に忙しい空港だというのが、全く想像出来ない程、静か。やはり日本とは、国土も人口も大分違うのであろう。主催者の方々の出迎えを受け、一路ホテルへ。しばしの休憩の後、さっそくオウルンサロ会館へ、リハーサルへ向う。着いたところは学校で、中にホールがあり、ラ・テンペスタのオーケストラのメンバーは、もう準備完了。私を暖かく迎えてくれた。

フィンランドに来ての最初の一言、ヴァアルディ四季の春の出だしに、さわやかな気分になる。これからこの若い音楽家達との音楽作りが楽しみである。コンサートマスターのヤンネ館野が、ずいぶん立派になって、以前より貫禄もつき、活躍しているのを嬉しく思う。夕方4時まで、しっかりとリハーサルの後、チェロのエルツキ・ラウテイオのリサイタルを聞きに近くの教会に行った。初めて見た北欧の教会は、私の今まで見てきた数多くの教会とは違い、木造でシンプルな作りの中にも暖かみのある雰囲気を感じていた。彼の音もその教会にさらに暖かみを加える様な演奏で、すてきなコンサートであった。

夜は地元の方のお招きで、全員でガデー

ンパーティー、家の中も外も見物、見る物、珍しく、楽しく夜が過ぎてゆく。

### 99・8・1 オウルンサロ

午前中、ヴィヴァルディのリハーサルを一時間程する。オーケストラが、みるみるうちに良くなっていくのがわかる。昼はオウルンの町を少し見て食事をして、波止場より船にてヴァルヤツカ島へ、多くの人々と一緒に、小一時間程の船の旅は青空の下、とても楽しい。島の船着場より皆で歩き、着いた小さな木造の建物、電気も水道も無い島、そこで音楽を聞いて楽しむ。ピアノはアップライト。決して恵まれている条件とはいえない中、それでも一生懸命演奏し、又、聞かぬ者も耳をかたむける。ここには普通の生活から考えられない空間が、すべて一つとなって、なんともいえない暖かい雰囲気をももたせて出していた。これが音楽のなせる力なのであろうが、楽しい一時はあっという間に終わり、夕方より再びヴィヴァルディのリハーサル、夜はオウルンサロ会館でのブラームスコンサート、とにかく楽しい！それにしても、ここは良いお天気が続く。

### 99・8・2 リミンガ

今日は、いよいよ私の初のコンサートの日、フィンランドでのデビューである。朝、ゆつくりと起きオウルンの町へ行く。ここオウルンサロより、バスにて15分位である。30分に一本の、それもいつ来るかわからない様なバスを待つのも、日頃せかせかしている自分からは考えられない程、不

思議にイライラしない。やはり時間がゆつくりと過ぎて行くというのは、いいものである。

午後、ホテルで少し休んだ後、夕方オウルンサロ会館にてシューベルトの、まず、を合わせる。ヴィオラのソインネ、チェロのラウテイオ、コントラバスのモイラネン、ピアノは館野泉さん、楽しい仲間である。館野さんも毎日、次から次へといろいろな曲で大変だなあと思いつながらも、どんな作り上げていくその過程に驚くべき、底知れぬパワーを感じる。

夜はいよいよ真夜中のヴィヴァルディの四季のコンサートに、リミンガ野鳥観測公園に行く。オウルンサロよりバスで約30km。そこは大地と鳥だけが生きづく、自然のまったただ中であつた。

春夏秋冬と弾きながら、沈みゆく太陽を見るのは何とも美しく、私も聴衆も自然も一体となり、音楽を楽しんだ。初めての体験でもあり、感極まる最高の夜であつた！

### 99・8・3 オウルンサロ

本日に良いお天気が続く、昼過ぎ、今夜弾くシューベルトのリハーサルをする。楽器の音が、今日は特に良く響き、又、自分の調子も良い。夕方までつい、美しい景色を見ながらさう。突然あらわれたのは、渡邊晶さん。いつも私のコンサートにいらして下さる熱心なファンで、ウガンダからわざわざやって来て下さった。本日に嬉し

今夜で、日本からいらしていた館野ファンクラブのメンバーも帰国らしく、皆と別れの挨拶をする。

### 99・8・4 ヴァルヤツカ

今日は、オウルンの町に行ってみた。さすがに町の中にはぎやかで、人通りが多い。あちこちで工事をしている様子だが、全体的に見ると町はきれいである。木造の建物が多いせいかととも落ちていて、又、暖かくぬくもりを感じる。

2時の船にて、ヴァルヤツカ島に再び訪れてみる。3日前と比べて今日は、少し肌寒いなあと思っていたら、雨がぼつりぼつりと降り出して来た。しかし、島に着いてまもなく止む。今日は、ソプラノ、フルート、ピアノによる、カスキ、クーラウの歌曲、ソナタ他を聞く。どれも自分には新鮮な曲で、心にしみ入る。再び船にてオウルンサロ会館へ、今夜はヴィヴァルディの再演。オーケストラの若い熱いエネルギーを感じながら、楽しく演奏、彼等の後半のシヨスタコーヴィツチ、モーツァルトは、素晴らしい出来ばえであつた。

### 99・8・5 ケンペレ

毎日のコンサートのせい或少々疲れも出てきて、朝起きるのが段々つらくなってくる。大抵同じ時間に二ヶ所でコンサートをやる為、又、オーケストラのメンバーは室内楽のコンサートもあり。各々のスケジュールを調整するのも大変である。今日は、午前中にトリオの合わせ、その後、本日はカルテットの合わせも予定していた

が、出来なくなってしまう夕方に変更、一度ホテルに帰って休もうとしたら再び変更、昼過ぎに少しリハーサルをする事となった。その後ホテルに帰り、一眠り、夕方起きて部屋でパツハの練習、夜のコンサートが楽しみである。今夜はケンペレという近くの村の中世木造教会という大変貴重な場所でのコンサートである。何でも北フィンランドでは一番古く、1680年に建造というから、パツハの生まれる5年前である。教会も素晴らしいが、その人々もとても暖かく迎えてくれ、夕食をとつていなかた私に、サンドイツチや数々の果実を用意してくれていた。

腹の減っていた私には、とても助かった。パツハを弾くというのは大変なものであつたが、貴重な機会でもあり、又、沢山の人々に聞いてもらう事が出来幸せであつた。

### 99・8・6

オウルンの町は、今日もにぎやかである。先日、ヴァルヤツカ島の絵だと思つて買った絵の店の近くでアラビアのガラス工芸品を見つけた。

1960年頃の物とかだが、しっかりと

いて、又、デザインも素敵であった。港の近くのレストランで昼食、レバー料理をこの国に来て初めて食したが、大変美味であつた。本日にこの国の食事は美味しい！食事の後、オウルンサロ会館へ今夜のピアニソラ、マラソンコンサートのゲネプロの順番がはり出される。見ただけでもわかる程、数多くの曲がいっぱい並んでいる。一

体今夜は、何時に終わるのかと心配になっ  
てしまう。

今夜弾く、ピアソラのカルテット、タン  
ゴ・バレエは、本当に4人の息が合わない  
と全く面白くない曲で、特にリハーサルで  
は念入りに準備をした。夕食後、コンサ  
ートは開始、館野さんのピアノソロに始  
まり、間もなく、タンゴバレエ、ギター  
のソロの後、私のヴァイオリンのソロに  
て魔王、アルハンブラ、そして水月恵  
美子さんとのチゴイネルワイゼンを演  
奏。第1部だけで、1時間の予定が1時  
間の予定が1時間の予定が40分も  
オーバー！一体何時にコンサートが終  
わるのだろうか？第2部は、ピアノデ  
ュオがメインで会場が盛り上がる。私  
の出番のトリオは、第三部で最後にま  
とめられる事になり、結局演奏したの  
は夜中の1時少し前、何とコンサ  
ートは5時間もかかってしまった。し  
かし、本当に最後の最後まで、聴衆  
は聞いてくれた。大変素敵な長い夜  
で、興奮は冷めない！その夜本場のサ  
ウナをゆっくり楽しんだ。

99・8・7

夕べの興奮が冷めやらぬ、寝たのは朝  
3時過ぎにもかかわらず朝はしっかりと  
お腹がすく。朝食後、レップマキさん  
のお宅でのホームコンサート。指がし  
っかり動くか心配である。

お昼に何とか無事終了後、エエヴァ  
・コスネンのバッハのコンサートに行く。  
タクシーで行く事30分、新しい建物の  
ホールで響きも申し分ないが、宣伝が良  
く無かったせいかな、あるいは土曜日の  
昼間だ

からなのか、それとも夕べの長いコンサ  
ートの後で、皆、まだ休んでいるのか。お  
客が少なく残念であった。コンサートも良  
かったが、その後のケーキの美味しかった  
事をつけ加えておく。

99・8・8 フィンランド最後の日

とにかく今回の旅は、自分にとって新し  
い多くの経験をした日々であり、人々の優  
しさ、自然の美しさ、音楽の持つ恐ろしい  
までも感動させる力にあらためて、思い  
入った10日間であった。

良い思い出ばかりの旅に近い将来、又、  
是非来てみたいと思うと共に館野泉さん  
を初めとする音楽祭の皆さんに、多大な感謝  
を送りたい次第である。

# 白馬で熱中 ヴァイオリン合宿

## 日本フィルの木野さん22人を指導



北安曇郡白馬村で、一週間合宿してヴァイオリンのレ  
ッスンをする「白馬ミュージックセミナー」が二十三  
日まで開かれている。全国から集まった小学生から三  
十五歳までの二十二人が、日本フィルハーモニー交響  
楽団のコンサートマスターで、世界で活躍している木  
野雅之さんの指導を受けている。  
セミナーは「ヴァイオリンの素晴らしさを多くの人に  
知って欲しい」と始まり、今年で三年目。さまざまな  
レベルの受講生が宿泊しているホテルや近くの教会、  
美術館で、朝から夜遅くまで練習を重ねている。  
今年から聖白馬教会で生徒達による無伴奏の曲（バッハ・  
パガニーニ）の演奏会が開かれた。

信濃毎日新聞より  
八月十九日

エクスタシー

# 木野 雅之

## ヴァイオリン・リサイタル

アンドリュウ・ボール(ピアノ)  
Andrew Ball (Piano)

**1999. 12. 13 カザルスホール**

スカルラッティ  
ヴァイオリン・ソナタ第1番 二短調

シマノフスキ  
ヴァイオリン・ソナタ 二短調

イザイ  
エクスタシー

香月 修  
詩 曲(献呈作品)

エルガー  
ため息  
ヴァイオリン・ソナタ ホ短調 作品82

ロッシェニ (カステルヌーヴォ=テデスコ編曲)  
フィガロ

●ジャパン・アーツ チケットセンター  
TEL:03(3499)9990 FAX:03(3499)9992

●サウンド & ミュージック クリエーション  
TEL:044(855)0111 FAX:044(788)1727

